

# 矢作川流域圏懇談会通信

## 全体会議 vol. 1



発行日：令和5年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第12回全体会議を開催しました！

2月17日（金）に矢作川流域圏懇談会第12回全体会議を開催しました。会議では、今年度の活動目標と活動成果、次年度の体制と活動目標について、意見交換を行いました。

日時：令和5年2月17日（金）13:30～16:30

場所：株式会社ビレッジ開発 3階大会議室

開催方式：対面・WEBハイブリッド会議

参加者：45名（内オンライン参加16名）＊事務局含む



### ◆主な会議内容

#### 1.今年度の取り組みと成果・次年度の活動目標、河川整備計画フォローアップ等について



##### ■懇談会の運営方針について

懇談会は、「矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る」「流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る」ことを目的に、①市民部会の活動の活発化 ②課題解決に向けた山・川・海部会の積極的な議論と交流 ③河川整備計画のフォローアップ を運営方針として活動を行った。

##### ■市民部会と地域部会の今年度の活動成果

各部会で活動目標を設定し、WG・フィールドワークなど幅広く活動を行った。流域連携イベントは4つのイベントに参加し、情報発信を行った。全体会議では、これら各部会の令和4年度の活動スケジュール、活動目標に対する進捗状況について報告した。

●市民部会：流域全体に関わるテーマとして「農業と環境」を取り上げ、「みどりの食料システム戦略」と「冬水田んぼ」について勉強会を実施した。併せて、東海農政局や大学関係など、農業関係の外部とのつながりを広げた。また、「47災害から50年」をテーマとして提案し、山部会で情報共有を実施した。バスツアーについては、新型コロナウイルス防止のため実施は次年度とした。

●山部会：「流域圏担い手づくり事例集」「山村ミーティング」「森づくりガイドライン」「木づかいガイドライン」の4つのテーマについて情報共有と意見交換を行った。流域圏担い手づくり事例集では、都市の木質化を対象に取材活動を行った。山村ミーティング・森づくりガイドラインでは、矢作川水源の山づくりガイドブック策定の一環として、森の健康診断や森林技能者等へのヒアリングを行った。木づかいガイドラインでは、早生樹の試験植栽、山梨県南都留森林組合との連携など各種活動を実施した。

●川部会：「本川モデル」「支川モデル」「地域連携モデル」の3つのテーマについて活動した。本川モデルでは、鵜の首地区水位低下対策事業、ヨシ原再生箇所、干潟造成箇所について、海部会と合同で状況把握と意見交換を行った。支川モデルでは、一級河川広田川（菱池遊水地）での大規模特定河川事業について情報共有と意見交換を行った。地域連携モデルでは、西三河生態系ネットワーク協議会の活動について情報共有し、今後の連携等について意見交換を行った。

●海部会：「ごみの問題」「豊かな海の再生」「海と人の絆再生」「土砂の問題」の4つのテーマについて活動した。「ごみの問題」では、三河湾だけでなく伊勢湾全体に目を向け、漂着ごみの現状について情報共有した。「豊かな海の再生」では、「豊かな海の栄養源」をテーマとした第3回公開講座を実施し、「豊かな海」について情報発信を行った。「海と人の絆再生」では、sobolonの山崎氏より海洋プラスチックを活用した新たな取組について報告いただいた。「土砂の問題」では、海・川合同部会にて、鵜の首の掘削箇所、ヨシ原再生箇所、干潟造成箇所の現地視察と意見交換を行った。

##### ■河川整備計画フォローアップ等について

●川部会まとめの会にて、愛知県より矢作川上流圏域河川整備計画について情報共有と意見交換を行った。全体会議にて、国土交通省より矢作川本川の河川整備計画の進捗状況について情報共有を行った。

●全体会議にて、矢作川水系流域治水プロジェクトの内容と進捗状況について報告があり、矢作川流域圏懇談会との情報共有・意見交換・協働について話し合った。

##### ■各部会の次年度の活動目標（案）

●市民部会：流域全体の課題をテーマに公開講座を実施する。地域部会（山・川・海）合同のバスツアーを企画・開催する。農業従事者や大学関係者など新たなつながりを広げる。

●山部会：次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマを軸として、情報共有と意見交換を行う。また、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献する。

●川部会：流域治水を軸に山・海・まちをつなぐ河川の役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する。また、次年度のテーマは、①河道に関する課題、②流域に関する課題、③交流・共有に関する課題に変更する。

●海部会：「豊かな海」や「海と人の絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。



# ◆主な会議内容

## 3.今後の計画 令和5年度以降の懇談会の体制について

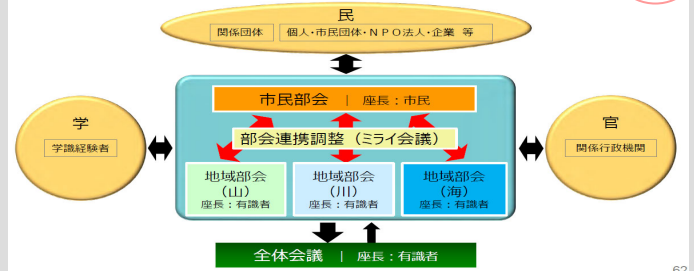


### ■体制図

市民が主体となる市民部会（※合同部会の座長：市民）と地域部会（座長：有識者）を設置して、流域連携テーマや流域のイベントを話し合う場とする。

### ■スケジュール計画

- 市民部会は、WG、まとめの会を実施するとともに、バスツアーや公開講座の実施を検討する。
- 勉強会と流域連携イベントの実施に関する意見は、市民部会が発信し、各地域部会を横断的につなぐ役割を担う。
- 地域部会 WG は、山、川、海で開催する。フィールドワークは随時実施する。また、総括として全体会議に向けた「まとめの会」を実施する。
- 部会連携調整（ミライ会議）を開催する。今後の流域圏のあり方等を検討、支援する。
- 中間報告会を令和5年11月に予定し、さらに全体会議を令和6年11月に行い、約1年半の成果と今後の課題を話し合う場とする。
- 流域連携に関するイベントに参加する。以下、想定されるイベント。
  - ① 矢作川感謝祭
  - ② いい川・いい川づくりWS
  - ③ 三河湾大感謝祭



令和5年度以降の懇談会の体制（案）

体制・イベント	月																		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
市民部会	WG	勉強会	←-----→																
	まとめの会																		
地域部会	WG	フィールドワーク	←-----→																
	まとめの会																		
全体会議	話し合いの会	★																	
部会連携調整	ミライ会議	←-----→																	
流域連携に関するイベント	① ② ③																		

令和5年度のスケジュール（案）

# ◆話し合いでの主な意見

（・意見 ➤ 回答）

### ■部会活動について知ってほしいこと

#### <山部会：蔵治>

- 流域圏と都市のつながりで、木材の利用に注目した活動を進めている。まちの人の流域圏への意識の高まりに期待したい。
- 現場の森林技術者の技術や悩み等を知り、それを4森林組合で共有することで、技術や安全確保の向上を目指している。
- 皆伐に注目してフィールドワークをやってきた。皆伐を考えながら、間伐による木材生産を検討していきたい。

#### <川部会：内田>

- 今年度は新しい試みを行い、かなり幅が広がったと感じている。
- 来年度は、①河道に関する課題、②流域に関する課題、③交流・共有に関する課題の3つの課題で整理し、検討していく。

#### <海部会：青木>

- 栄養塩をもう少し出してもらって、適切に管理して、豊かな海にしていこうというのを議論してきた。今回、公開講座という形で外に向けて発信できたことは、これまでにないよかったです点だと思う。
- sobolnの海洋プラスチックの活用は、違った視点でもしろく、若い人とのつながりという点でもよいと思った。
- 河道掘削土砂を海に運び干潟再生するという動きにつながっているのは、ずっと声をあげてきたというのが大きいと思う。

### ■流木の問題について

- 海岸に流木が漂着する現象は、我々のライフスタイルに密接に関連している。法制度の問題もあり、解決が難しい。矢作川流域圏、伊勢湾全体の流域圏で問題・課題を共有し、解決を模索する必要があると思う。（蔵治）
- 人間の歴史、土地利用、ライフスタイルをどういうふうと考えていけばよいか。流域圏懇談会で議論できればと思う。（辻本）
- 流木をゴミとして扱うのは問題。それをうまく利用できないかという議論もしてきた。（青木）
- 水、栄養塩、土砂、流木等の自然の流下物は物質循環の一つであり、ゼロにはできず、海まで行くものと考えている。同時に、漁業者など海の関係者は困っているので、そのあたりを発信したいという思いがある。（近藤）
- 流木の問題は、山・川・海で議論できる格好の話題であることから、今後も取り上げていけたらと思う。（辻本）

### ■今年度の取り組みと次年度の活動目標に対する意見

- 有機農業が進むと、雨水等の土への浸透量が増え、海底湧水も増える。流域の循環を考えれば、健全な土壌を通った水が栄養塩を持って海に出ることになる。農業と河川の関係は遠いように思われるが、循環の視点で考えたい。（井上）
- 農業関係、企業、工場など広く流域圏懇談会への参加を進めたい。そのためには、会として何を期待しているのか、どういふふうに参加してほしいかを明確にし、具体化する必要がある。（光岡）
- トヨタはテストコースに環境学習センターを作っている。そういうところも含めて、企業とコラボできれば、勉強の場、川や木のこと、砂のことなど活動の範囲が広がると思う。（高橋）
  - 事務局のほうで、どんな連携相手があるのかリストアップしていただきたい。例えば、生態系ネットワーク協議会には学生や工場とのコラボしているところが多い。連携できそうな組織をサーベイするとよい。（辻本）
- 多摩川流域懇談会について教えていただきたい。（内田）
  - 矢作川の場合は、営みと言う視点が強い。多摩川は、森林組合とか漁協とかいった営みの視点があまり感じられず、都市型の市民活動を主体に活動していると感じた。（近藤）
- 他の流域圏との連動を考えることも可能になってきており、一部ではそういう試みもされている。問い合わせもけっこう入ってきており、矢作川流域圏の取組の広がりを実感されるようになってきていると思う。（辻本）
- 部会連携調整（ミライ会議）が設立され、市民部会の活発化につながってきている。（辻本）
- 山・川・海があり、その地面として農業や都市と流域の関わりに注目し、取り組みを進めているのは非常によいと思う。（辻本）

### ◆お問合せ◆

#### 矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 山路、建設専門官 宮本、技官 松田  
TEL 0532(48)8107

\*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

